

## あなたに はつたつち

リレーエッセー⑤⑥

### 子どもたちを小さな冒険に送り出そう

播磨町を二十七年間留守にしていた。この間の町の変化には帰省するたびに驚かされていた。播磨町は行政面積が県下で最も小さい町、人工島を除く六百ヘクタールに三万四千五百人が住んでいる。

中学生の時には確か八千人だったと思う。応援団の練習を良くやっていた喜瀬川の土手は、今ではフェンスで仕切られて中学校からは気軽に川へ出られないようだし、河川改修で昔の面影もない。

でも、その喜瀬川を対象に「喜瀬川の水辺植物観察会」、「喜瀬川水生生物観察会」が役場の主催で行われている。また、昨年には二子水利組合のご協力で北池を舞台に「魚にご対面、魚のつかみどり」が行われた。さ

らに、向ヶ池、喜瀬川、大池、城池などを舞台に「渡り鳥パードウオッチング」が開催されている。

人口が四倍以上にも増えた町の中にも自然が残り、心ある人たちの手によって、特に子どもたちを対象とした自然と親しむ機会が設けられている。子どもたちには日頃の遊びから離れた自然に親しむのには大変良い機会であり、親としても有り難いことだと思っている。しかし、参加されている子どもの数は極めて少ない。

昨年、町子連協が実施した地区子ども会活動に関するアンケート調査の結果、保護者の方が行事の案内や広報を読み、「大変良い行事だ」と思われても子どもにも知らせないことがあり、そ

れは、「自宅から行事会場までの道筋を考えると危険で、とても子ども一人で送り出せないという不安」を持ってもらえ、「共働きの忙しさを考えると子どもも同行できない」という事情のためだと分かった。

子どもたちにとって、日頃の親の注意を守って一人で出かけ、学年を超えた子どもたちと知り合い、大人の人たちと一時を自然の中で過ごすことは、心がワクワクする「冒険」であり、大きく変わった時には経験できない大切なことだと思っている。

大人のように何かと主張がでない子どもたちの行動に常に関心を払える、子どもたちに「小さな冒険に出かける」機会を与えてやれるような環境を用意できる、温かい社会で在って欲しいと願っている。

それが、「平均年齢三十八歳と若い」世代の願いでもあると思



井上 晴喜さん  
(南大中)

趣味 読書、歩き回ること

### 消防署へ行ったよ



担架に乗せてもらったよ

消防署のおじさんたち、これからみんなのために頑張ってくださいね。

### 播磨保育園

消防署のおじさんたち、これからみんなのために頑張ってくださいね。

5歳児の子どもたちは、保育園の近くにある消防署へ見学に行きました。消防車や救急車を目の前にして大喜びでした。

救急車の中に乗せてもらって酸素マスクをつけたり、担架に乗って運ばれたりして普段体験できないことをたくさんさせてもらいました。

実際に防火服を着て、「この服ほんとに燃えないの?」と不思議がったり、放水訓練で水が勢いよく出ると、「お水ってこんなに重いのか?」「こっちは消すんだあ」と驚く子どもたち。

また、「どうしてこの仕事をしようと思ったの?」など、たくさん質問にも親切に答えてくださいました。いろいろな話を聞き、消防士の仕事の大変さを子どもたちなりに理解したようです。

### みんなで大中遺跡に行ったよ!!

#### 蓮池幼稚園



思い出がいっぱいできました

2月27日(木) 今日幼稚園のお友だちみんなで大中遺跡に遠足です。年長児はもうすぐ卒園。行き帰りの道では年中・年少児の手をしっかりとつないで歩いて行きます。行く途中、喜瀬川の河原を歩いてみると、きれいな花をのびたし、ささぎや、かもの親子に出会い子どもたちは歓声をあげました。

着くとベアの年長・年中・年少児が一緒になって遊びました。「ささぎのお花きれい。一緒に花びら集めしよう!!」「遺跡の中って広いね」「大きい組さん一緒に縄跳びしよう!!」と思いきり体を動かして遊びました。みんな一緒に食べたお弁当もおいしかったです!!

とっても楽しい1日を過ごしました。大きい組さん楽しい思い出をいっぱいありがとう。幼稚園のことは僕たち私たちにまかせてね。

### 光のない世界って?

#### 蓮池小学校



貴重な体験でした。感想は?

みなながら福祉の学習を進めてきています。バリアフリー社会の担い手として、さらによい福祉のあり方を見つめていってほしいものです。

頭の中ではあれこれ想像はできるけれど、実際に自分がそれを体験してみようと思ったアイマスク体験。本校では6年生の子どもたちが、この活動に取り組みました。

盲導犬を連れて来校された山本さんのお話に熱心に耳を傾ける子どもたち。こんなこと、あんなこと、困らないの? 不便利じゃないの? いろんな質問にも終始明るい笑顔で答えてくださる山本さんに、どの子もきつと言葉以上の何かを学ぶことができたはず。

他にも本校では4年生が手話教室、5年生が車いす体験に取り組み、楽しんでながら福祉の学習を進めてきています。バリアフリー社会の担い手として、さらによい福祉のあり方を見つめていってほしいものです。

### 地域のみなさん、よろしくお祈いします

#### 播磨南中学校



南中新生徒会のメンバー

1月18日(土)から1泊2日の日程で、南中新生徒会のリーダー研修会が、明石の少年自然の家で行われました。

生徒会執行部14名の団結を深め、リーダーとしての自覚を持つとともに、具体的な活動方針を決めました。

今年の方針は「あいさつをしよう」「公共物を大切にしよう」そして、最後に「地域に認められる学校にしよう」の3つです。また、「ひろげよう!南中スマイル」をキャッチフレーズに、南中らしい、南中にしかない笑顔を広げていきたいと考えています。

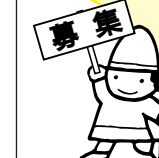
活動範囲も校内だけでなくとどまらず、町の色々な行事にも積極的に参加したいと思っています。

地域の方々にもご協力をお願いすることがあるかもしれませんが、精一杯頑張りますので応援よろしくお祈いします。

## わんぱくはりまっ子



管 真由子ちゃん(2さい) 大悟くん(11カ月)  
大中  
家族みんないつまでも仲良しさんでいようね  
(お母さんより)



このコーナーに出たいだく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(3歳~5歳対象)広報担当まで電話を。またスナップ写真を送ってもらってもけっこうです。

前回の紙面では生活の基本として、「おはよう」、「おやすみ」、「いただきます」、「ただいま」、「お帰り」などあいさつを家庭の習慣として提言を致しました。

今回は不登校と毎日の生活リズムについて考えてみたいと思います。

身体が本来持っている活動機能は、昼活動し夜休む基本設計が組み込まれています。

1日のサイクルは、夜明けと共に目覚め、起床から朝のあいさつ、洗顔、歯磨き、朝食、仕事(学校)、休憩、仕事終了、家庭でのくつろぎ、夕食と家庭団楽(テレビ・ラジオを聞く)、明日への準備、就寝する。

このように毎日リズムミカルに過ごしてこそ心身の健康が保た

### 不登校について考える(2) 生活のリズムを考える

子どもの悩み相談員 松田 政雄

しかし、いろいろな理由でこのサイクルが欠ける数が多いに思いますが、心身に不調が起これば、

特に成長盛りの児童・生徒にとっては影響が甚大です。

最近の傾向として夜更から朝起きるのが遅くなり、洗顔や歯磨きをせず、朝食抜きのまま学校へ行ってしまう。

そうすると授業中はお腹も空き、眠くて考える力が出ない。遊ぶ時間もパワーが出ず、学校が次第に楽しくない場所になってしまった。

このような原因から、学校を休み、不登校や引きこもりへと陥ってしまうケースも多いのです。規則正しい生活リズムを子どもに身につけてほしいのです。